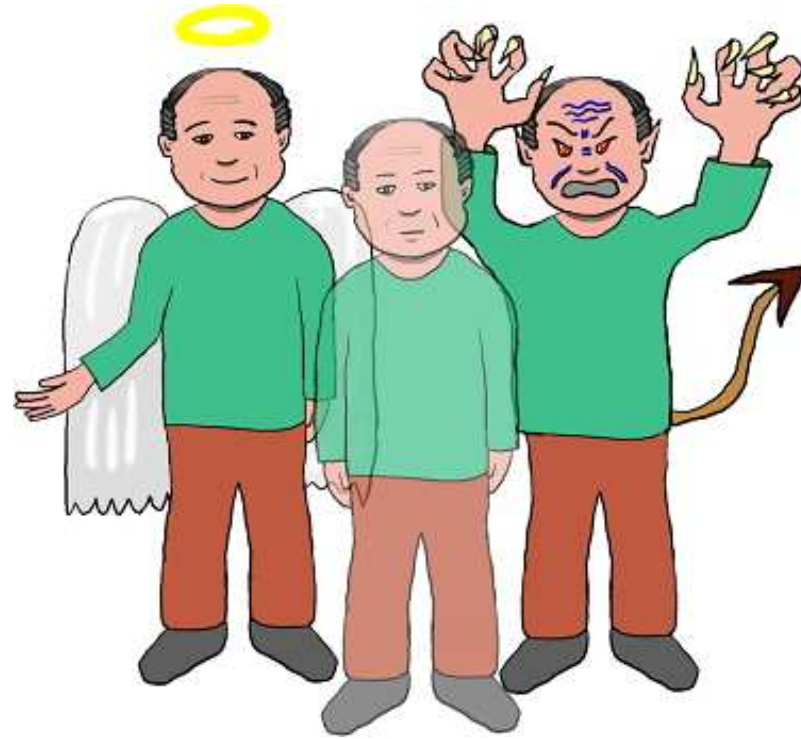


優しい誘拐犯



東郷 潤

朝、子供たちが学校へ行くところです。



お母さんとさよならをして、子供たちは一緒に学校へと向かいます。



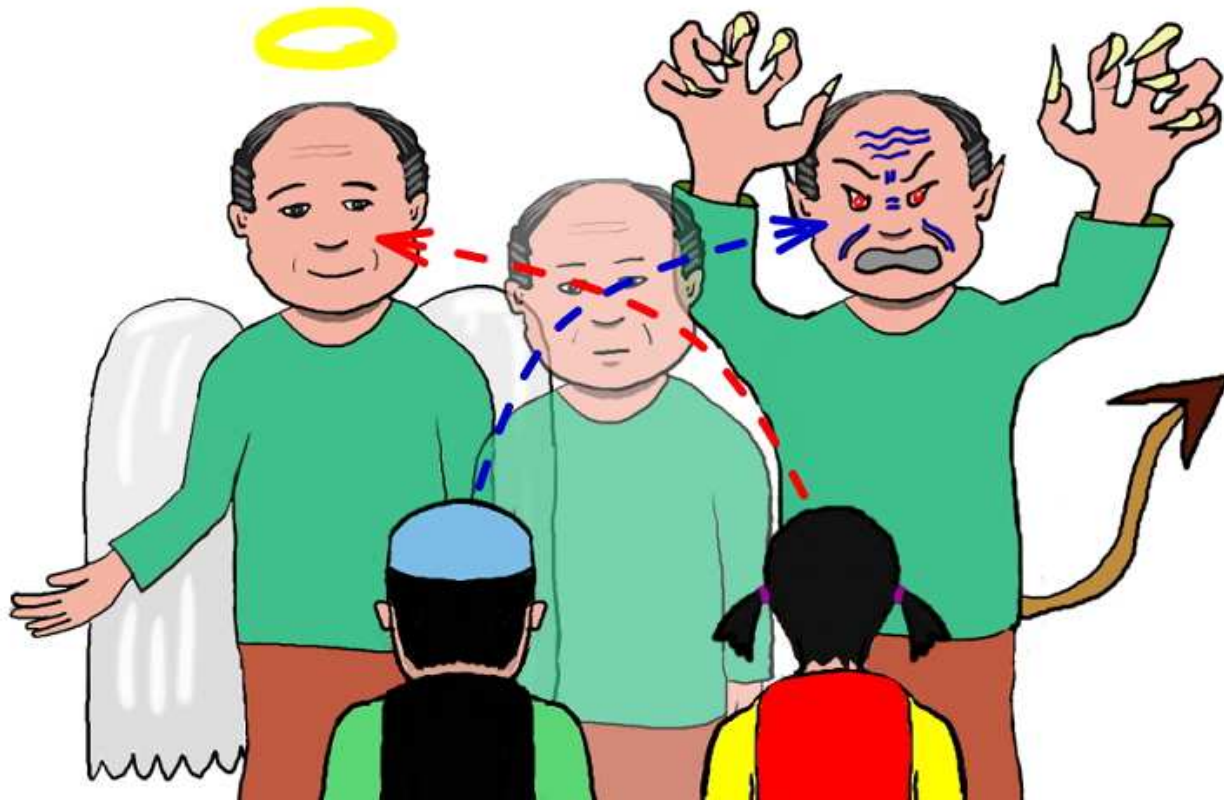
そこへ、ひとりの男性が声をかけてきました。



ねえ、君たち。
郵便局どこにあるか、
知らないかい？



男の子はこの男性を誘拐犯かとも思いました。女の子はこの男性を、お小遣いをくれる優しいおじさんかとも思いました。



子供たちの男性への認識は、それぞれ全く違うものとなったのです。

このように、全く同じ人に対する人々の認識が全く異なってしまうことは、全く珍しいことでは有りません。



あとがき —絵本「優しい誘拐犯」

本絵本は差別をテーマとする絵本集の1作品です。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、ぜひ他の方にもご紹介いただきたくお願い致します。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org

©Jun Togo 2013